

講演 2

「トウモロコシを取り巻く現状と将来」

アメリカ穀物協会 (US Grains Council)

日本代表 浜 本 哲 郎 氏

皆さま、こんにちは。アメリカ穀物協会の浜本と申します。

まず始めに、本日このような機会をくださいました中村学園大学の理事長の中村さま、また学長の甲斐先生に深く感謝をいたします。また本日、土曜日の一番ゴールデンタイムの昼間にもかかわらず、このように多くの方にこのセミナーにご参加していただいたことを感謝いたします。

私はこれからトウモロコシの話をしていきます。実は最初に「家畜は何が一番たくさん食べているでしょう」と皆さんに聞こうと思ったのですが、すでにお答えを山本先生からいただいてしまいましたので、もう一つ質問を考えてあります。

三択です。「家畜が食べるトウモロコシはどのようなものか」という質問です。1番、スイートコーンは今シーズンですけれども、おいしいスイートコーンを畑の上で乾燥させ、エダマメやダイズのようにして収穫したものを家畜が食べるトウモロコシ。

2番目、スイートコーンと家畜が食べるトウモロコシはまったく別な品種。まったく別な畑で、まったく違う方法、まあ違う何ですか、基本は同じですけれども作られている。

3番目、私たちが食べるスイートコーンの規格外のものが家畜の飼料として使われる。

この三択です。1番が答えだと思う方、手を挙げていただきたいと思います。私も久しぶりに大学で話をしますので。

まず、1番だと思われる方。スイートコーン

を畑の上で乾燥させたものですね。

2番だと思う方。多いですね。

3番目だと思う方。規格外。

はい、ありがとうございました。

正解はスイートコーンとは別物です。この写真のトウモロコシはスイートコーンです。私も大好きですが、今、スーパーや八百屋さんに行くと、いっぱい売っています。これを私は親しみを込めて、お野菜コーンと言っています。スーパーでは野菜売り場で売っているトウモロコシです。

これは家畜が食べるトウモロコシです。品種が違います。スイートコーンと言わずに、フィールドコーンと言っていますけれども、これはデントコーンと呼んでいます。なぜデントと言うかということ、皆さん、歯医者さんを英語ではご存じでしょうか。デンティスト (dentist)。なぜかということ、歯をいじる人なのでデンティストといいます。

この一粒をよく見ていただくと、上がくぼんでいます。これが動物の奥歯に形が似ているので、デントコーンと呼んでいます。日本ではウマの歯、馬歯種と聞いています。

これは畑で、夏、8月後半から9月頭ぐらいに撮った写真です。左側の写真は、夏場のトウモロコシ畑です。これは北海道に行くと日本でも見ることができます。非常に背の高いトウモロコシです。

私ぐらいの世代ですと、『フィールド・オブ・ドリームス』という映画があります。ブタの産

地でも有名ですけれども、トウモロコシの産地でも有名な、アイオワ州のトウモロコシ畑の中につくった草野球場に幽霊が出てきますが、その背よりも全然高い。それがこのトウモロコシです。このトウモロコシが秋になると、右側の写真のようになります。これは畑で枯れて乾燥し、この状態で収穫をします。

収穫したものがこの写真です。これは収穫直後に向こうで、トウモロコシを手にくったときの写真ですけれども、こういうかたちで収穫をされます。

私は、トウモロコシの仕事を始めて20年ぐらいになりますが、一番最初にこの話をしたときに、アメリカからトウモロコシを日本に持ってくるときに、頭の中にはスイートコーンしかなかったもので、ごろんごろんと、ああいうものをそのまま船に積んで持ってくるのだらうと思っていました。一粒、二粒と言われたときに、ちょっと意味が分かりませんでした。

でも、よく考えてみれば、芯なんかいらぬのです。なんかと言っではいけないですね。芯は芯で別に重要ですけども、芯はいらぬので、粒だけ持ってくるということで、こういうかたちで収穫をされて、いろいろ使われます。

先ほど山庄司先生からアメリカ食肉輸出連合会のお話もありましたが、私たちも同じ非営利団体で、扱っているものがトウモロコシ、オオムギ、グレインソルガムという3種類の穀物です。穀物協会と言っていますが、コムギやコメにはまた別の団体がありまして、私たちはもともと家畜の飼料に使っていた穀物の3種類の輸出促進をしています。

先ほどの山庄司先生と同じで、私たち自身は直接売買には絡んでいません。日本のユーザーさんに情報提供して、毎年作柄はどうですと。また、いろいろな要望を逆に本国の生産者に伝えるということをしています。ちょっと食肉に負けますが、世界に10カ所の事務所があります。

では、その生産と利用です。お手元の資料に

答えが書いてありますのでクイズになりませんが、1年間に世界で生産されるトウモロコシの量です。約10億トンになります。私も10億トンと言われても、まったく想像もつかないので、スタッフに分かりやすい例はないかと言ったら、ゾウがありますと。ゾウの体重が、平均で約8.5トンだそうです。ゾウで何頭分ですかと言ったら、1億1700万頭と。

これでもまだ分からないじゃないかということで、ではヒトはどうでしょうかと。ヒトは体重が少し少ないかもしれませんが50キロとすると200億人分。世界の総人口は70億人ぐらいですから、世界の全人口の3倍ぐらいの人数分は毎年作られています。

トウモロコシについては、世界の生産量の約3分の1が米国で作られています。そして、その利用です。世界のトウモロコシ利用の半分以上は家畜飼料に使われています。それぞれ生産される国の中での家畜の飼料です。

それから、国内での主食とでんぷん。主食というのは、トウモロコシを粉にして焼くトルティーヤとか、そういう主食の粉として使われるもの。あるいは、でんぷんの原料として、でんぷんをそこから取ってくるという、食品原料として使われます。

そのほかには、ちょっと上に飛ぶと、エタノール、これはいろいろ議論がありますけれども、アメリカではトウモロコシを原料として、燃料用のエタノールをつくっている。これが1割ぐらいになります。

輸出は、米国から、また南米から日本、あるいはほかの国へ輸出をされている量が、世界全体ではこれぐらいになるということです。

半分が家畜の飼料、4分の1が食糧と。あと4分の1が貿易とエタノール生産になります。

では米国での生産はどうかというと、先ほどの10億トンのだいたい3分の1になります。年によって前後はしますけれども、3割ぐらいから、3分の1ぐらいはアメリカで作られます。

そのうちの、これもだいたいですが、3分の1が家畜飼料に、3分の1がエタノールに、1割ぐらいが食品に。そして、その残りが輸出に回るということで、この場合は、だいたい15%。そのうちの30%が日本へということになります。

これは年によってまた変動しますが、私が感じているのは2割の2割ですね。2割が輸出され、そのうちの2割が日本に来るので、5%ぐらい日本に来ます。です、アメリカで生産されるトウモロコシ100粒取ってきたら、そのうちの5粒ぐらいは日本に来るということです。

これは考えてみれば、すごいことで、この教室ぐらいの所にトウモロコシを作るとしたら、この2列、3列分は日本に来てしまうわけです。全米のですね。それぐらい日本は米国産のトウモロコシを使っています。

これで200粒か300粒ぐらいありますので、この中で10粒、それ以上は日本に来るということになります。

では、日本ではどうか。日本で食品原料、あるいは畜産飼料に使われるトウモロコシは、実の部分です。実として使われるものが100%輸入です。今は99.9%ぐらいと言ったほうがいいかもしれないですけども、そのうちの3分の2が家畜飼料、3分の1が食品原料というようにだいたいなっています。

それではこれから、写真とビデオがありますけれども、トウモロコシが米国の畑で植えられてから、日本に来るまでを追ってみたいと思います。

その前に、アメリカの地図です。どの辺でトウモロコシが作られているかということ、こちら辺の米国中西部になります。トウモロコシとほぼ同じ条件で生産できるはダイズです。ですので、農家は1年目はトウモロコシ、次の年はダイズ、またその次はトウモロコシという、いわゆる輪作をすることが多いです。

もうちょっと北へ行くと、私たちがもう一つ対象としているのはオオムギですけども、ム

ギはこちら辺の北西部になります。あと、コムギはこちら辺も含めて、南のほうに来ますけれども、こちら辺がコムギの産地です。そして、先ほども山庄司先生からお話のあった畜産が、トウモロコシ・ダイズよりも少し西側が主な産地になります。

これはなぜかという、アメリカはこちら辺にロッキー山脈があります。日本でもそうですが、日本海側の冬は雪が多く、太平洋側は乾燥していますけれども、これも湿気がロッキー山脈で全部取られて、非常に乾燥した気候になります。ですから作物の生育には、ちょっと雨が少ないのですが、家畜の生産には適している気候なので、この辺のトウモロコシ産地の少し西側に畜産があるというかたちになっています。地図でいうと、真ん中辺から上ぐらいで作られています。

これが畑です。畑に種をまいています。これがいっぺんにトラクターで16畝ぐらい、1回の播種の工程で16畝ぐらい行きます。それが芽生えてきたのが右の写真です。

夏になると非常に旺盛な生育をします。これは農家の人ですが、農家の人の背よりも高い。実はこちら辺の地上1メートルのところになっています。

この写真が、ちょうど今ごろです。これがトウモロコシの雄花で、雌花に実が付くわけですけども、開花をして受粉をしている時期です。今の米国でのトウモロコシ畑のある中西部の気候が、今年このトウモロコシが豊作になるのか、作柄があまりよくないのかというキーの時期になっています。ですから毎日、今日はそこで雨が降ったとか、4日後に雨が降るとか、私もそうですけれども農家の人も非常に気にして天気予報を見ている時期です。

収穫時期は、地域によって違いますけれども10月ぐらいです。これが畑です。収穫時には、こういうかたちで枯れたようになっています。

これが収穫するコンバインです。これは12条

です。いっぺんに12畝を収穫していくことができます。

これが実際に、コンバインが畑の中に入って収穫をしているところです。この前に出ているロケット状のところの一つ一つになります。これに挟まれるようにしてトウモロコシの畝が、ここに入っていくわけです。そこをずっと前進していくわけです。

このところで、ちょうどロケットみたいなところが、トウモロコシの実のなる高さになっていますので、そこで切って、この中で実だけをほぐして、実を後ろのワゴンと言っていますけれども、ためるところに収穫していくということです。

収穫している風景について、これは2年前の10月の末ぐらいですが、ビデオにしたものがありますので、それをご覧になっていただこうかと思えます。これは日本人の方と、お客さんは私どもと一緒に向こうに行ったときに作ったものです。

(ビデオ再生開始)

これが先ほどのコンバインです。これでだいたい3千万円から4千万円する機械です。

天気が悪いのは分かると思いますが、明日くらいから雨が降るということで急いで収穫をしている、雨が降る前に収穫したいということで収穫を始めているところです。

この右側ですね、1回入ろうとして戻って入れ直していますけれども、1回入ったところが、ちょっと残すように間違えて入ってしまったので入り直している。なぜそうするかというと、これは1回入ってしまったら、あとはセンサーとGPSがあって、手を離しても畑の反対側まではそのまま行きます。ですから、最初に入れるときだけはやりますが、その後は手を離してもセンサーとGPSで、ずっともう反対側まで行きます。

これはコンバインの上から見ているところで、中は非常に快適だということです。

ここにモニター画面があります。ちょっと見づらいですが、自分が進んでいる所がたぶん分かって、今どこにいるのだというのが画面上で分かるようになっていきます。

でないと、自分がどこにいるのか、上から見ているだけでは分からないので、トウモロコシしか見えないので。

この青いところが、今進んでいるのは、ここだということです。カーナビみたいなものですね。このところに自分がいてという。この先端部に、このワイヤーのようなセンサーが付いています。これで感知しています。

このコンバインの後ろに、ためるところがありますけれども、それがいっぱいになってしまうと、これから出てきます。そこから、走りながら併走するトラックに積み替えていきます。

このモニターで見えますけれども、実際にこれは、もうすぐ映りますが、左側を併走しているトラックに収穫しながら、そのまま積み替えていきます。

ですから、本当に、天気のいい間に、その収穫に適している間に、なるべく早く収穫してしまうと。品質のいいものを適切なときに取ろうということです。

こちらもいっぱいになりますと、これが止まって、コンバインはそのまま収穫を続けますけれども、このトラックは先に行ってしまうという事です。

これは行った人たちです。

(ビデオ再生終了)

ということで、あのように収穫をされます。

収穫されたものは、今度はトラックに積んで、いわゆるエレベーターですね、中継基地に行きます。このようなアメリカでよく見る大きさのトラックですけれども、これに積み替えていきます。農家はトラックを何台も何台も使います。だいたい農家はトラックを所有しています。これを全部所有しているか分からないですが、大きい農家だと、だいたいトラックを2、3台、

自分で持っている、それを使って運んでいきます。

運んだ先が、これがそうですね。エレベーターがあります。これは比較的大きなエレベーターですけれども、地域のエレベーターで、先ほどのトラックの腹から地下にあるピットに落とし、それをこのサイロにためていくということになります。

もう一つの行き先は、最近先ほども申し上げましたとおり、2割か3割ぐらい、今は3割以上ですね、エタノールの生産に使います。これはエタノール工場で、収穫の最盛期ですので、このサイロに入りきらない。この丸く切ったのはピットですけれども、この上にトウモロコシをどんどん保管するように落としているところです。これを原料にエタノールを作ります。

そして、エレベーターに行ったものですが、今度は日本に来るときですが、大きく二つあります。そのエレベーターから、一つは貨車に積まれて西海岸に行きます。西海岸は皆さん、シアトルとか、ポートランドとかご存じかと思えますけれども、西海岸まで貨車で運ばれて、そこから船で日本に来る。

もう一つは、ミシシッピ川を下ってニューオーリンズに行き、そこから船で運ばれるものがあります。これはニューオーリンズに行くほうのミシシッピ川、これはかなり上流ですが、そこから船で行くものです。ここに川が見えます。ここにちょっと赤いのが見えますけれども、これで運ぶわけです。

ちょっと戻りますが、先ほどの地図の、ここはトウモロコシの生産地ですが、この白いのがあります。ここをだいたいカバーしていますが、この白いのは何か分かりますでしょうか。

この白い地域は、ミシシッピ川の流域です。ここからこちらまで降った雨は、ミシシッピ川で、このニューオーリンズから海に注ぐという。流域にほぼ一致したことになりますので、その川を使って、トウモロコシを含めた穀物を

運んでいきます。

これが少し広げたものです。シカゴからセントルイス、そしてニューオーリンズという有名な都市を結ぶようにミシシッピ川が流れていて、こちら辺がトウモロコシとダイズの主産地になります。こちら辺から、ミシシッピ川の水運を使って効率よく運んでいます。

これは私たちはバージ (barge)、「はしけ」と呼んでいます。「はしけ」に、今このようにトウモロコシを積み込んでいきます。「はしけ」を何隻もつなげて、それをタグボートで押すなり、引っ張るなりして、ミシシッピ川を使って港のほうに運んでいきます。

これが港に着いた「はしけ」、バージになります。

これがニューオーリンズにある輸出用のエレベーターです。これは全農さんが持っているエレベーターです。ニューオーリンズは全農に限らず、いろいろな輸出、穀物メジャーといわれるところを含めた輸出業者が、このような輸出用のエレベーターを持っていますが、ニューオーリンズでは一番大きいエレベーターです。ほかの会社で、2、3カ所持っていて、合わせればここよりも大きいのはありますけれども、このエレベーターは一番大きいエレベーターです。

ここは全農グレインと書いてありますけれども、ここに、こういう船に着けて、そこに運び込んでいきます。1隻で、5、6万トンぐらい積んで、これを運んでくることができます。

先ほどのエレベーターの、こちら辺を見たものがこれです。今のこの船と岸壁の間に、水の通り道があります。ここは、このサイロから船に運ぶのとは別に、ここにバージを通して、ここから今度は積み込むのをここでやっています。

これがバージで運ばれてきたトウモロコシになります。これはふたをかぶっていますが、ふたを上げると、中がこういう感じになっています。ここに積まれていますし、もう一つ分かるのが、ここにふたをかぶったままのバージがあ

ります。

こちらを見ていただくと、同じふたがかぶっていますけれども、この水面との高さを見ると、こちらがわりと水面に近いのに、こちらは引き揚げているわけではなく、そのまま水に浮いていますけれども非常に高さが高い。

これはなぜかという、こちらはまだトウモロコシは入っていますが、こちらはトウモロコシを全部積み下ろした後になります。船がトウモロコシ分浮いてくるということで、空にするところのようになります。今こちらは入っている状況です。

これを出す一つの方法が、ショベルみたいなのがずっと蛇腹のようにつながっているもので、ずっとそれを動かしながらすくっていく。それを取ってサイロの中に入れていきます。そして、船に乗って日本に来ます。

日本に来るルートですけれども、先ほどのニューオーリンズからパナマ運河を通して、太平洋を渡って日本に来ます。私たちは、ここを湾岸地域ガルフと言っています。ガルフルートということで、ニューオーリンズからパナマ運河を通して日本に来ます。

こちらは貨車で、トウモロコシ産地から運ばれて西海岸から、こちらは北西部太平洋岸ルートということで、運河も通りませんし、距離も短いです。

日本に来て、これは鹿島の港ですけれども、こういうかたちで積み下ろしがされて、日本で使われます。

今日のテーマが今後のTPPですか、そういう貿易の話ですので、今までどうだったか、これからどうなるかということ、トウモロコシに関してそういったことを考える基になるデータをちょっとお話ししたいと思います。

これが1960年代から現在までの、世界のトウモロコシ生産国の生産量を示しています。これは米国、赤が中国、その後、ブラジル、インド、EUなどありますけれども、一目瞭然で一番多

いのが米国です。

そして、中国が多いです。中国は穀物が足りないという話で、そういったイメージしかありませんけれども、あまり知られていませんが非常に大きな穀物生産国です。トウモロコシも今中国では、ほぼ自国の旺盛な消費を賄えるほどの生産がされています。非常に生産量も伸びています。

これは、将来、生産性はどうなるかということ、これを予測したものです。これが2015年ですので、ちょうど実際の値があるここまでが過去で、これから先が未来になります。

アメリカでの単位面積当たりの収穫量です。どれだけ同じ面積からトウモロコシができるようになったか。どんどん技術進歩や品種改良などで増えています。これは米国です。

これが米国も含めた主に輸出トウモロコシ、輸出している国はどうかということ、これも伸びています。そして、赤が中国ですが、中国も伸びています。今後も、トウモロコシの生産は増え続けると言われています。

エタノールは、いつも私は聞かれるので、あらかじめちょっとお話をしておきます。エタノール生産というのは、米国で今の必要量をもう生産して、さらにそれに余りある生産量があります。今後も増えていきますので、エタノール生産はありますが、これからのトウモロコシの供給ということから、大きな問題にはならないだろうと思っています。

今度は輸出量の今後の予測です。米国でも増えていく。ブラジル、アルゼンチンもそのまま結構あるだろうということで、輸出だけ見ても、やはりこれからも上昇傾向は続くだろうと思っています。

ということで、今日は米国でのトウモロコシの生産から、実際に日本に来るまで、どのように持ってきているのか。また、ちょっとだけですけれども、今後はどのような展望なのかというお話をさせていただきました。

北海道、九州は、日本の畜産が盛んな所で、私たちはトウモロコシを、これからも共存共栄で使っていただいて、伸ばしていきたいと思っています。

トウモロコシは、米国でも畜産に使われている、日本でも畜産に使われているということで、私たちとしては、どのセクターも伸びていける

ような効率のいい世界。これは一つは、今後のいろいろなグローバル化というものもあると思いますけれども、そういった中でやっていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

皆さん、ご清聴ありがとうございました。

(講演 2 : 終了)

中村学園大学 流通科学研究所 第11回国際セミナー

講演2

「トウモロコシを取り巻く現状と将来」質疑応答

アメリカ穀物協会 (US Grains Council)

日本代表 浜本哲郎氏

○会場1 一般社団法人九州の食のユキタと申します。

二つ質問があります。先ほど最後のグラフを見せていただきましたが、アメリカの生産量はかなり年によって乱高下しているということがありますが、それに比較して、中国はわり安定して伸びているという状況があります。その原因というのは、まず何なのかということ。

それから、トウモロコシに関しては、ここにいらっしゃっている方々はほとんどご存じだと思いますけれども、遺伝子組換えの問題であるとか、モンサントの問題であるとか、あるいは先ほどおっしゃったトウモロコシのエタノール研究ですね。それによって今後、アメリカの農家さんが生きにくいとか、農業をやりにくいという現状を報道とかでも見るところであるんですけども。今後、そういった面で、アメリカはどう変化していくのかなというのを、浜本さんなりのご意見をお聞かせいただけないでしょうか。

○浜本 ありがとうございます。

一番最初の質問ですけれども、米国の生産量が非常に振幅が大きいのに、中国は小さいということですが、これは中国の統計の取り方と、米国の統計の取り方が違うというのがあります。この場合は、出典はたぶん米国農務省だと思いますが、英語だとベストゲス (best guess) と言うんですが、こうであろうというベストな推測になります。ですので、実際のところは、米国と同じぐらい上下しているかもしれないです

が、ちょっとならしてしまうと、ああいうかたちだと思っています。

もう一つ、エタノール、あるいは遺伝子組換えですけれども、おそらくご質問のご趣旨は、特に最近、米国で遺伝子組換え関連の表示のルールが議会で、つい昨日、おとといですが、上院・下院を通りましたので、これから法案、法律になっていくと思います。

おそらくそういうことで、さらにいい遺伝子組換えの需要が増えるのではないかと。そういった中で、米国の農家は遺伝子組換えのトウモロコシで非常に効率よく、安全性の高いものを作っているけれども、少し戻らなければいけないのではないかとかなとも思いますけれども。

米国の農家は、ある特定のトウモロコシが市場で需要があるとなれば作ります。そのコストが高ければ、価格は高くなるというのがありますけれども、例えば少し手間がかかるけれども、その分高いのであれば作ると。それに見合うのであれば作りますというのがあります。ですから、そういった需要が今後、米国内、また海外で増えていけば、それを作っていくことになると思います。

モンサントなどがきついというのは、遺伝子組換え、非遺伝子組換えということではなく、最近、実際畜産をされている方とか、穀物流通に詳しい方はご存じのとおり、一昨年、2年前に比べると、トウモロコシの相場は下がっています。



トウモロコシの相場が下がるということは、トウモロコシが農家にとってみれば高く売れないということで、その分コストを下げなければいけない。種子だけに限らないですけれども、資材費を下げなければいけない。実際、高い種子は買えませんよと。種子会社は高く売れなくなってきたということで、株価的に考えれば、ちょっときつい局面になるというのは事実だと思います。

○会場1 ありがとうございます。

○司会 ほかにいかがでしょうか

○会場2 中村学園大学流通科学部の山田と申します。貴重なお話をいただきまして、ありがとうございます。

質問は、今の生産量のトレンドみたいなものを示していただいたんですけれども、需要については今後どのようになっていくのか、ちょっと興味があります。例えば、食用というか、人間の口に入るもの、あるいは家畜の飼料になるもの、いろいろあると思います。それによって荷動きというか、変わってくると思うんですけれども、その辺はいかがでしょうか。

○浜本 ご質問ありがとうございます。

非常に難しい質問だと思いますけれども。需要については、トウモロコシは基本的に3分の2が家畜飼料というのもありますけれども、家畜生産、畜産物生産が伸びれば消費は伸びます。

これから、インド、中国、ほかの東南アジアの国々で、より食肉、畜産物の消費が増えていくと、期待というか予測されていますので、それに応じて需要は増えていくと考えています。

では、それは大丈夫なのかということですが、供給も生産量で、今回グラフはなるべく減らしたんですけれども、これからも増えていく予想です。

特に、今すでに起こっていますけれども、古くからの輸出国であった米国以外に、南米の国々、東欧の国々で、ブラジル、アルゼンチン、ウクライナ、ルーマニア、そういった所が輸出穀物

としてトウモロコシを生産するようになってきています。そこら辺からの輸出も、これから国際市場的には増える。

あとは、中国です。まだまだ伸びると思います。中国での生産性というのは、まだ非常に伸びる余地がありますので、そこで伸びていくのかなと思っています。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。

もうお一方、時間がありますので。

○会場3 筑後市の農政課のナカノといいます。ありがとうございます。

お話を聞いていますと、たかだかと言ったらいけないのかもしれないですけど、5%ほどが日本に来ていると。それが、一番最後に言われましたように飼料作物ということで、TPPの話で、日本の畜産農家がつぶれるぞというような話をよく聞いていました。

私はそこまでいかないのかなと農政課の中で話していましたが、今お話を聞くと、小さいですけれどもお得意先の一つということで日本の畜産農家がある。ということを見ると、日本の畜産農家は逆に育てなければいけないのかなと。穀物協会としてもですね。というふうに今聞いて考えたんですが。

今後の日本の畜産農家に対する支援というのはまずないでしょうけれど、協力体制とか、日本の畜産農家をどうしたらいいのかというような、何か考えがもしあれば、お聞かせ願いたいと思います。お願いします。

○浜本 ありがとうございます。

私が言いたかったのは、100粒のうち5粒が来るということが、日本の市場がいかに米国のトウモロコシ生産者というか、業界にとって大きなことかということです。5%が来るというのは非常に大きいことです。普通の企業の株主総会で、5%株を持っている人の発言力は結構大きいのも同じで、影響力は大きいです。そういった中で私が今やっていこうというのは、ま

さにおっしゃるとおり、日本の畜産業が栄えれば、米国産のトウモロコシも使っていただけるということがあると思います。

そういう中で、支援というのは非常におこがましい話で、どのように私たちと一緒にやっていけるのかと、どういったことを私たちがしていけるのかというのを教えていただくと非常にありがたいと思っています。

中村学園学長の甲斐先生と私もいろいろお願いをして、九州の畜産農家さんの所に行って、どういった状況なんだろうと。そういった中で、

私たちがもし何かできるとすれば、何ができるのかなということを見つけていきたく思っているところです。ですから、何か私たちにできることがあれば、ぜひ一緒にやっていきたいと思しますので、教えていただければと思いますし、そのような機会をいただければ非常にありがたいと思っています。

○司会 ありがとうございます。

それでは、よろしいですね。浜本さん、ありがとうございました。

(質疑応答2：終了)